



発行所
道前会
愛媛県西条市明屋敷 234
愛媛県立西条高校内
電話・FAX 0897-53-2192



大手門唐獅子(第61回卒業生寄贈)

いあいさつ



第8代会長
村上 俊行
(58回)

会員の皆様、お変わりございませんか。

三月の東日本大震災につきま
しては、多くの方が犠牲者とま
た被災者となりました。東北
及び関東の被災地区にご在住の
約七百名の会員の方々、また会
員のお身内の方、ご親戚の方々
にはご無事でしでしょうか。
関係者の皆様に衷心よりお悔や
みとお見舞いを申し上げます。
また我が国の未曾有の危機とも
云える事態に対して、身の危険
を顧みず救出や復興のために頑
張っておられる会員やその子
弟の方々には、深く敬意と感謝
を申し上げますと共に、無事に
目的が果たせますことを心より
お祈り申し上げます。

さて道前会の運営につきまし
ては、会員の皆様より物心両面
にわたり多大のご支援とご協力
を賜っておりますこと、誠にあ
りがとうございます。またご寄
付を頂いた方々、広告としてご
協力を頂いた方々に厚くお礼申
上げます。

私たち役員は会員の親睦はも
とより、他の地域から目標とさ
れるような西条と云う地域創り
を目指すのは勿論、その実現に

欠かせない人材を育てる学び舎
として期待されている母校の充
実に、より良い支援ができるこ
とに努めております。

この一年間、理事会は「ホー
ムページ運用」「会報作成」「道
前会活性化」の特別の委員会を
作り活動をしてきました。会の
最新情報はインターネットの
ホームページでご覧ください。
会報では新年度の情報を十分お
伝えできたでしょうか。「活性化」
では母校への支援、評議員会の
充実に取り組んでいます。同期
会の情報が多くなり喜んでいま
す。事務局では幹事さんへのア
ドバイスやお手伝いをしていま
す。

会費につきまして、生徒数の
減少や経済不況以来納入が減少
するなど支部への補助金を減
額させて頂きました。申し訳な
く思っています。創立百二十年
年記念に向けた準備も必要にな
ります。ご協力をお願い致します。
三月一日は母校の卒業式でし
た。六十一回卒の方々が百余名
参列くださいました。国歌校歌
などを生徒と共に大声で歌い、
素晴らしい感動を共有しました。

この記念に六十一回生から大手
門屋根の裏側に欠けていた魔除
けの鬼瓦をご寄付頂きました。
新卒業生も東大を含む難関校に
合格し、普段からの充実した学
校生活が素晴らしい卒業式に現
われていることがうかがえまし
た。

本年は総会の年です。講師の
お話にもご期待をいたします。

会への相変らぬご支援とご鞭
撻をお願い致しますと共に、会
員の皆様のご健勝ご活躍をお祈
り致します。

いあいさつ



第34代校長
藤岡 典夫
(72回)

全国の道前会会員の皆様にお
かれましては、ますます御健勝
にて御活躍のこととお喜び申し
上げます。また、皆様には、平
素より、母校の教育活動に、格
段の御理解と御支援・御協力を
賜っており、衷心より深く感謝
と敬意を表する次第です。

私は、平成二十三年度春の異
動で、河野前校長の後任として
母校に着任をさせて頂いたさま
でした。微力・非才の若輩者では
ございますが、母校のため精一
杯努力をして参る所存でござい
ますので、今後とも末永く、ど
うぞよろしくお願い申し上げます。

少し自己紹介をさせていただ
きたいと思えます。

私は、七十二回の卒業で、理
数科の二期生です。卒業いたし
ました一九七二年は、卒業直前
の二月に、日本のジャンプ陣が
日の丸飛行隊として活躍した札幌
オリオンピクがあり、それに
続いて、連合赤軍によるあさま

山荘事件が起こりました。この二つの出来事は、今でも強く印象に残っています。

また、できたばかりの理数科は、個性豊かな人物が多く、創設期にふさわしく先生方も気合いが入っていて、無理矢理引っ張られるように勉強した記憶があります。

西条高校は、本年度、創立以来一六年目を迎えます。これまで道前会の皆様に支えられて、地域社会の中で確固たる地位を築いてまいりましたが、これからも伝統を尊重しつつ、それに安住することなく、新しい、そして特色ある西条高校を作り上げていかなくてはなりません。そのためには、どうしても道前会の皆様方の御理解と御協力が欠かせません。なにとぞ御指導・御支援のほどよろしくお願い申し上げます。

最後に、皆様方の今後ますますの御活躍と御健勝・御多幸をお祈りいたしますとともに、道前会のますますの御発展を心より御祈念申し上げます。ごあいさつとさせていただきます。



お礼の言葉



第33代校長 河野 敏

風情のあるしだれ柳、清らかな水を湛えているお堀、2000有余年の歴史を積み重ね、全国でも数えるほどしかない貴重な大手門、いずれも風格と歴史を感じさせ、毎日心をいやされ励みにさせてくれたこの風景も見納めとなりました。西条高校に勤務させていただいて、あつという間の2年間でした。歴史と伝統のあるこの学校で、生徒の文武両道にわたる活躍に感動する機会が数多くあり、わくわくした気持ちで日々務めることができました。また、保護者や地域の皆様から絶大なる御支援をいただき学校行事などスムーズに運営ができ、大変ありがたき感謝申し上げます。

OBの支援を得て、より気合いの入った練習に打ち込み、夏季大会での優勝を目指している野球部、女子のソフトボールを中心に今年度も全ての部が県総体に出場し、成果を上げようと活動している運動部、合唱部の活躍に刺激を受け充実した活動をしている文化部、それぞれの部活動において主体的な取組が見られ、今後更なる活躍をしてくれるものと期待しています。



今春の卒業生の進路は、就職については厳しい状況でしたが何とか全員内定しました。また、進学においては国公立大への合格者が年度当初に立てた数値目標に到達する勢いを見せ、難関大学や医学部などへも複数の生徒が合格するなど予想以上の成果を上げました。これからも本校の文武両道がさらに高いレベルで発揮されるよう生徒・教職員一体となつて努力し、活力と魅力ある西条高校を目指してほしいと願っています。

「待たるるや庭の桜の咲く春を」庭園に浮かぶ十河信二先生の句碑です。先生の野球部が甲子園に出場する期待を込めた句でもあると紹介してありますが、私もまた今後はこの句の気持ちに立つて、西条高生が甲子園出場はもちろんのこと県内外のいろんな場面で活躍することを期待していきたいと思えます。

最後になりましたが、各地で行われました道前会に参加させていただき、多くの出会いがあり、多くのことを学ぶことができました。西条道前会の県内外の会員の皆様には大変お世話になりました。西条道前会のますますの御発展と、会員の皆様の御健康と御活躍を御祈念申し上げます。お礼の言葉といたします。

部活動状況

今年も昨年と同様多くの場面で西条高校の活躍がみられました。

運動部は、すべての部が県総合体育大会に出場。総勢247名の参加になり、ここ数年で最高の参加人数になりました。主な結果は、ソフトボール部が2年連続優勝したのを筆頭に、ソフトテニス部女子個人1ペアとともに全国大会に出場権を獲得し、バドミントン女子団体とソフトテニス部女子団体が3位、それらと陸上部3名、水泳同好会3名が四国総体にも出場しました。(ソフトボール部は四国総体でも優勝)。その他にはバレーボール部女子、サッカー部、剣道女子団体がベスト8などの活躍がみられました。

また、ラグビー部からは数名選抜され全国の大会に出場しました。野球部は夏の大会で惜しくも準決勝で宇和島東に敗れ、2年連続の甲子園とはなりませんでしたが、西条魂を見せてくれました。文化部では、合唱部が全国大会、四国大会に出場するなど、今年も活躍しました。また、県総合文化祭には77名が参加して、それぞれの分野で発表しました。なお、今年も全国大会に出場するにあたり、道前会よりその都度御芳志を賜りました。誠にありがとうございました。また、道前会にも協賛していただきました恒例の芸術文化発表会も、8月13日西条総合文化会館でたくさんの方の鑑賞者のもと、美術部・書道部・写真部が展示発表、ダンス部・日本

特活課長 内田 宗志

全国大会出場

〔体育関係〕

・ジャパンセブンズ2010 (東京都 22年4月)

・ラグビー部 (東京都 22年4月) 2名

・全国高等学校総合体育大会 (沖縄県 22年7月～8月)

・ソフトボール部 (長野県 22年7月) 3名

・ソフトテニス部女子 (大阪府 23年1月) 1名

・全国高等学校合同チームラグビーフットボール大会 (長野県 22年7月) 3名

・ラグビー部 (大阪府 23年1月) 1名

・合同チーム東西対抗戦 (大阪府 23年1月) 1名

・ラグビー部 (大阪府 23年1月) 1名

〔文化関係〕

・全国高等学校総合文化祭 (宮崎県 22年8月) 9名

・合唱部 (宮崎県 22年8月) 9名

・音楽アンサンブルコンテスト (福島県 23年3月)

・全国大会 (福島県 23年3月)

・合唱部 (福島県 23年3月)

進路状況

平成 22 年度卒業生

平成 23 年 3 月 31 日現在

進路課長 大谷 修一

進路決定状況			大 学				準大学	短期大学・短期大学部			専修各種	内予備校	家事手伝等	就職	合計
			国立	公立	私立	計		国公立	私立	計					
22 年度生	普通科	男	38	6	48	92	1	0	0	0	6	5	1	2	102
		女	35	12	39	86	0	5	7	12	30	2	0	2	130
	理数科	男	14	3	5	22	0	0	0	0	3	3	0	0	25
		女	5	1	4	10	0	0	0	0	1	0	0	0	11
	商業科	男	2	1	7	10	0	0	0	0	1	0	0	2	13
		女	2	0	4	6	0	0	4	4	8	0	0	8	26
計			96	23	107	226	1	5	11	16	49	10	1	14	307
既卒生	普通科	男	2	4	6	12	0	0	0	0	2	2	0	0	14
		女	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	理数科	男	5	0	1	6	0	0	0	0	0	0	0	0	6
		女	1	0	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2
計			9	4	8	21	0	0	0	0	2	2	0	0	23
総 計			105	27	115	247	1	5	11	16	51	12	1	14	330

進路(合格)状況			大 学				準大学	短期大学・短期大学部			専修各種	内予備校	家事手伝等	就職	合計
			国立	公立	私立	計		国公立	私立	計					
22 年度生	普通科	男	40	9	144	193	1	0	0	0	7	5	1	2	204
		女	37	15	107	159	0	6	14	20	45	2	0	2	226
	理数科	男	14	3	11	28	0	0	0	0	3	3	0	0	31
		女	6	2	13	21	0	0	1	1	2	0	0	0	24
	商業科	男	2	1	10	13	0	0	0	0	1	0	0	2	16
		女	2	0	8	10	0	0	4	4	8	0	0	8	30
計			101	30	293	424	1	6	19	25	66	10	1	14	531
既卒生	普通科	男	2	4	30	36	0	0	0	0	2	2	0	0	38
		女	1	0	3	4	0	0	0	0	0	0	0	0	4
	理数科	男	5	0	3	8	2	0	0	0	0	0	0	0	10
		女	1	0	2	3	0	0	0	0	0	0	0	0	3
計			9	4	38	51	2	0	0	0	2	2	0	0	55
総 計			110	34	331	475	3	6	19	25	68	12	1	14	586

受験状況(延数)			大 学				準大学	短期大学・短期大学部			専修各種	内予備校	家事手伝等	就職	合計
			国立	公立	私立	計		国公立	私立	計					
22 年度生	普通科	男	92	24	296	412	1	0	3	3	7	5	1	3	427
		女	95	40	202	337	0	9	20	29	61	2	0	2	429
	理数科	男	24	5	33	62	0	0	0	0	3	3	0	0	65
		女	9	2	31	42	0	0	1	1	6	0	0	0	49
	商業科	男	4	2	14	20	0	0	0	0	1	0	0	4	25
		女	6	3	16	25	0	0	4	4	8	0	0	10	47
計			230	76	592	898	1	9	28	37	86	10	1	19	1,042
既卒生	普通科	男	16	12	55	83	3	0	0	0	2	2	0	0	88
		女	5	0	6	11	0	0	0	0	1	0	0	0	12
	理数科	男	5	0	3	8	3	0	0	0	0	0	0	0	11
		女	1	0	11	12	1	0	0	0	0	0	0	0	13
計			27	12	75	114	7	0	0	0	3	2	0	0	124
総 計			257	88	667	1,012	8	9	28	37	89	12	1	19	1,166

新しい年度、平成二十三年が始まりました。新三年生は西条高校最高学年と自覚し、自分の進路決定を目標に、自分自身の「勝負」に取組始めました。

さて、昨年度の進学状況ですが、国立大学合格現役延べ人数は、百三十一名に達しました。内容においても、名古屋大学、大阪大学、横浜国立大学、神戸大学など難関大学を多数の現役生が突破しました。医学部医学科においても三三名、また、岡山大学は十八名と健闘しました。地元愛媛大学には、三十二名の生徒が見事に合格しました。商業科においても、国立大学過去最高数五名が合格したのをはじめ、私立大学十八名、私立短大四名、専門学校八名となり、二十九名が進学しました。また就職は、例年より求人が少なく苦勞しましたが、十名が就職することができました。さらに既卒生においても、東京大学文科二類一名、自治医大一、愛媛大学医学部医学科二名、大阪大学歯学部一名と健闘いたしました。

これからの入試動向ですが、受験人口は十八歳人口が一九九二年（平成四年）にピークに達し、それ以降は少子化の影響で年度により若干の増減はあるものの、減少傾向にあります。そのため、進学率は上がっているものの、大学受験人口は減少を続けています。二〇一一年度入試の大学受験人口は約七四・五万人と若干の増加が見込まれましたが、今後さらに減少することが予想されます。数字の上では大学に入学しやすくなっているといえるでしょう。

各大学では、受験人口減少の影響

で、学生数を確保するために様々な改革を行っています。たとえば、多くの大学で特色ある学部が新設・改組が行われていますが、このような大学の改革は、受験生の将来を考えると、歓迎すべきことといえます。世界的な経済不況による社会情勢の中、学費節約のため受験生の地元国立大学志向が強まったり、受験料節約のために私立大の併願校を減らす傾向が見られます。学部系統の動向としては、このような先行きの不透明感からか、将来の就職を考えた学部選択をする傾向が見られ、農林・水産系（特に生命科学系）は人気を維持、看護系や教員養成系の資格取得を目指す学部系統の人气が回復するなどの動きとなっています。では、今後の入試動向のポイントをまとめると、以下ようになります。

入試制度改革や学部新設・改組を行った大学・学部は人気。文系は教育系の人气が急上昇。理系では、理・農林・水産系のほか、看護系などが資格が取得できる学部系統の人气が復調傾向。医学部医学科の人气は難関国立大で復活傾向にある。

ではこれからの西条高校の進路指導は、受験情報を早くキャッチし、受験生が希望通りの進路に付けるようさらなる努力をしていきたいと思えます。

大手門を築立ってゆかれた数多くの諸先輩の皆様と同様に、勉強やさまざまな試験に打ち勝った成果が今まさに現れようとしております。これから母校の進路指導に御理解をいただき、愛すべき後輩達への温かい御指導・御支援を賜り、本校がますます発展していければ幸いです。今後ともよろしくお願いたします。

随 想

米寿を祝って、
最後のクラス会を
しました
— 柳ルリ子 (白菊 32 回)

関東大震災の年 (大正 12 年) に生を受け激動の時代を越えて、私達はめでたく米寿を迎えました。

祝米寿同窓会や秋の空
大塚歌子 (矢野) 神戸市
美しく年を重ねし友かきの
笑顔嬉しや八十八の会
新田光子 (寺川) 東京都

来た道往く道語れる友と
ひととき楽しくクラス会
るりこ (一柳) 西条市小松町



平成 22 年 10 月 19 日 於 西条国際ホテル 18 名

チャンピオンへの道
三迫 仁志 (52 回)



[経 歴]

- 昭和 9 年 1 月 10 日生 愛媛県出身
- 昭和 25 年 5 月 25 日 野口ボクシングジム入門
- 昭和 30 年 1 月 6 日 全日本フライ級チャンピオン
- 昭和 30 年 3 月 5 日 東洋フライ級チャンピオン
- 昭和 31 年 3 月 明治大学商学部卒業
- 昭和 35 年 12 月 25 日 三迫ボクシングジム創設
- 昭和 38 年 4 月 株式会社三迫プロモーション設立
- 昭和 50 年 3 月 文部大臣スポーツ功労賞受賞
- 全日本プロボクシング協会 会長
- 全日本プロボクシング協会 最高顧問

野口先生から「三迫君東京にこないか。来れば必ず日本一の男にしてやるから」と言うお誘いの手紙を頂きました。野口先生との出会いは、野口先生が終戦後上海より引き上げて東京に戻

る途中に親友宅の有る新居浜に立ち寄り、その時にお目に掛かったのが最初でした。野口先生の滞在中にボクシングを習い、喧嘩三昧。住友銅山の若い職工さんが大勢いて、喧嘩相手には事欠かなかったのです。一発必中で顎を打つと倒れる喜びと、面白さで二、三回大立ち回りをすると、田舎の事故、大騒ぎになり両親の知る所となり、「ボクシングを習っているから喧嘩するの、今後一切ボクシングはだめ」と禁止されました。その様な時に野口先生からお誘いを頂戴したので、直ぐにも上京したいと返事をしたので、野口先生が迎えに来られ、新居浜市長を同道し、両親の許可を取ってくれました。友人達に見送られ上京し、明高に転校。二十七年明大入学。二十五年十一月六日にプロデビュー。永松監督と野口先生とは友人関係であったので、同級生と今は無くなった地下の明大道場で練習したのは懐かしい思い出です。当時の明大は野球部、拳闘、ラグビー部も強く、運動部の黄金時代でした。私も三年生の時比国のタニー・カンポに勝利し、東洋フライ級チャンピオンになりました。試合会場には多くの友人達が応援に来てくれ、リングを降りたところで胸上げをされ、生まれて初めて嬉し涙を体験しました。応援団出身の大先輩の岩田嘉吉郎氏に出会い、以来ずっと相談役として指導して頂いて居りました。野球部の秋山登君、明高野球部からの友人沖山、甲子園球児の松田、友野、村山君等沢山の友人が応援してくれました。今でも感謝の気持ち一杯です。菊池弘泰氏を始め、明高明大野球部監督の島岡御大、平井義一先生、島田、大島両先輩。大勢の明大先輩に可愛がって頂いた事、今つくづくと幸福を噛みしめて居る次第です。

我が空手人生
越智 秀男 (58 回)



昭和 15 年に西条に生まれ、中学 3 年生の秋より同期の松本君から、空手を習い西条高校空手愛好会で本格的に稽古を始めました。3 年生の夏見た映画が、私の人生に大きな影響を与えました。東映の波島進主演、「飛燕空手打ち」で戦前の拓大空手を扱ったものです。恋あり涙あり、最後には蒙古に雄飛するといった硬派の青春映画で、これに感動し拓大を受験しました。

西条高校で空手を修行したお蔭で、新入部員が 1000 名くらいいました。が、大学構内の空手都合宿所に入所できる 10 名に選ばれ、寮生活を送る事になりました。先輩後輩の関係は大変親密でしたが、厳然たる上下関係がありました。稽古も月、金が朝、昼、夜の 3 回、火、水、木が朝、昼の 2 回で教室と道場の生活が 4 年間続きました。そして空手部主将と成り拓大卒業後、社団法人日本空手協会の研修生として、専門家に成る為の稽古を終えました。学生時代の様に先輩に絶対服従等と言った事は有りませんが、稽古を怠けても誰も注意などしてくれませんが、自主的に稽古をして実力を付けなければ専門家としての地位を淘汰される厳しさです。実技も人間の力の限界迄挑戦するような稽古で、自由組手の 10 人

感謝の心をこめて
Challenge & Smile

チャレンジします。みなさまの笑顔のために。



掛り稽古などは3〜4人まではどうにか互角に対戦できるのですが、それ以後は息切れがし、思考力が薄れ無意識に近く成り、自分では何をしているか分から無く成ります。この稽古の目的は、自我を取り去った後、無意識の内に出した技が、己本人が会得している技で有る、との哲学のもとに行われます。何年か修行した後、日本空手協会の全国大会で何度か組手、形とも優勝しました。

1970年4月5日、先任の師範が帰国される事に成り後任として渡独し、丁度復活祭の合宿に約200人くらいの参加者が有り、師範と合同で指導にあたりました。師範がその夜、生徒達があんなに小さな(165cm)越智が全国大会で何度も優勝したなんて考えられないと言っているから、あそこは大きな参加者を5人くらい選ぶからその人達と組手の相手をしなさいと言われました。相手は180〜200cm位の身長の高い人達です。もし不覚を取ればその日の内に日本に帰らなければと覚悟を決めました。不特定多数の者に実力を示す為には、完全なる勝利が必要です。中段に決めた後でも相手がすばやく上段を突き新任の先生の鼻にでも触り、鼻血でもだせば勲章を手にしたようなものですから、少しでも不安が有れば危険をおかす事ができません。

そこで、逆に相手の身長を利用しようと考え、足にて顔面攻撃をする事にしました。相手は2mちかくも有りこちらは165cmですから相手が普通の高さで構えて居れば顔面等に蹴りは届きませんが、逆に小さな身長を利用し、重心を後ろに移動し上半身を後方に倒して低く構えると相手はつられて上半身を前に倒し上から見下ろすような状態になった時、素早く重心を高くして

上段を蹴ると、顔面に届きます。後で師範の所に、足の短い小さな越智の蹴りが、僕の顔面に届くのかと、不思議がって聞きに来たそうです。最初の危機はこの様に脱し、合宿に参加していた人達が、各地区に帰り宣伝してくれたので、後の指導が楽になりました。ドイツ人は他の国民とは違った国民性と文化を持った人種だと感心する事があります。

現在はドイツ、ヨーロッパ各国、米国、イスラエル、南アフリカ等で空手の普及活動を行い、ポランディア活動としてカンボジアの孤児院やアフリカの奴隷海岸の国、ベナン共和国の村の子供達にも空手指導を行っておりま

す。村には電灯も水道も無く、井戸が深すぎて手押しポンプも使えないので、滑車を使いバケツで汲み上げているような村です。稽古は野外で素足のままで行いますが、子供達は興味をもち熱心に稽古をしています。

昨年の秋祭りにはドイツより18名の会員を西条につれて行った時に、58期の同期生10名と私の家族10名で、約40名の人達が集まりパーティーを開いてくれた事を、ドイツの会員達は驚き、西条は大変やさしい人達が多いですね、と喜んで居りました。

第110回卒業証書授与式に出席して

赤星 映子 (60回)

第60回卒業生(1960、昭和35年卒業)60名は第110回卒業式(平成22年3月1日)に参列した。

曇り空でも、晴れやかに、50年ぶりに、大手門をくぐった。思えば、家が近く、母の卵入り(当時、卵は高価)



味噌汁をのみ込み、高校の鐘と共に、この門をかけこんだ。たまには前の日のかばんと母手作りのお弁当を持って。そして、今日も、私と相棒(赤星、塩崎：小学以来の友)はタクシード走りで込んだ。

式場では、演台の真ん中に大きい日の丸が目をつけた。閃いた事は、"右寄り"。一方、今日閉会したバンクローリンピックで日の丸を期待し、ニューヨークの国連本部では、加盟国の国旗の中に日の丸を見つけて喜ぶのも私です。国旗に対するこの複雑な感覚は何? 私達は、戦後の"民主教育"で育ち、大学は工学系が人気の高度成長期に卒業した。1960〜70年代は、様々な分野で今も話題になる。今年の卒業生の就職は、リーマンショック以来の不況で、非常に厳しい。

卒業生への証書授与時、野球部の秋山さんに、旧卒業生がどよめいた。在学中、わが西条高校は、全国制覇をなしとげた。私は、卒業後、大阪の大学で西条高校を誇らしく感じた。私達は私がかも、亡父は野球部)野球に特別の思いがあると、不思議な運命を感じた。終わりに、卒業生が"仰げば尊し"を歌った。卒業歌として今年も、"誰かが支えてくれる"の"3月9日"が、最も多い。若者の歌で締めくくるのはいいかも。

私達の卒業式より、大人しい。相棒は、都会ではもうないと伝統的卒業式に感動した。50年後の卒業式招待は、ユニークな試みです。若者に世界平和と幸せを願い、式場を後にした。

同級会には、80名が出席した。食べ放題! 飲み放題! 焼肉の肉は我々には固すぎる文句言いつつ、方言で話はずんだ。

50年後の再会とジョークも出て、岩岡さんの運転で道後温泉に向かった。健康、経済面など、余裕が有る人が参加できたと我々の幸せに気づき、"ありがとう"と感謝を表そうと話した。

翌日、NHKドラマ"坂の上の雲"の舞台の、石手寺と子規資料館、坊ちゃん電車で松山城を訪ねた。

この旅は、昨秋、逝った弟 赤星伸一(第65回)を偲び、腰を上げた。善意に支えられ、楽しい旅になった。この感想文を5年後式に参列できない弟に捧げます。塩崎久巳子、岩岡加代子、赤星光毅(従兄 第59回)、松本洋子(妹、第62回)、学校関係者及び世話人(森実智子、近藤弘、荒木智昭、近藤孝生、加藤加代子、前田直美、古川実穂)に感謝いたします。



株式会社フラスコ

代表取締役 藤原 弘 一 (79回)



〒793-0010 愛媛県西条市飯岡字岸之上3743番2 TEL 0897-56-7482・FAX 0897-56-6534

夢を紡ぎ夢を叶える

元根 秀佳 (79 回)



「これもトルベイントですか？」と作品展で不思議そうに質問される事が多い。トルベイント「可愛いアメリカン・カントリー」と思っている方がまだまだ多いのだと思う。二十年以上前巷で可愛いステンシルやカントリーペインティングが大流行していた。三人の子育てをしなから人とは違う「何か？」を探していた私は松山の大きな書店で一冊の本の表紙に一目惚れした。黒の下地に上品な花が沢山描かれた作品。

オランダ、アッセンデルフト村の伝統工芸をオイルから扱いやすいアクリル絵具に変更しモチーフも花を中心として現代に蘇らせた。日本でもまだ珍しい「アッセンデルフト」技法のトルベイント本だった。本を購入し材料を揃え描いてみた。出版社と同じ技法で別の本はないか問い合わせてみたら国内外で一冊のみとの返答だった。

次は教室を探した。手紙を送った東京の芳賀敏子先生からお電話を頂いた。「小さな子供を三人も育てながら習いたいと書いた貴女の熱意に打たれました。」先生手書きのカラーコピーテキストを参考に通信教育が始まった。この道で知られた存在の先生である事を後の出版物で知った私は不思議な御縁で恩師と巡り合

えた事になる。

アッセンデルフトと芳賀先生のオリジナル「ナチュール・マーレン」の繊細な技法を上級まで習い七年かけてやっと認定講師のお免状を頂いた。その後講師対象のレッスンを受ける為毎月名古屋まで通い、芳賀先生の直接指導を受ける夢も叶った。螺鈿を使用したり源氏物語等風の技法も教えて頂いた。

上手になりたい一心で習い始めた私も先生の後押しで教室を持ち、指導者の少ない西日本を中心に少しでも多くの方に作品を見て頂きたいと新たな夢が出来た。市内のギャラリーで作品展を開いた時、松山の百貨店での手作り作品展に出品してみませんか？とお誘いを頂いた。

私の夢が小さな芽を出し始めた頃、実家の両親の介護生活が始まった。加えて義両親やずつと応援してくれた夫までもが手術・入院と時期が重なり筆を持ってない程追いつめられた時もあった。親が望む娘としてのサポートは特に難しかった。

限られた時間で作成する為「野の花」のオリジナルデザインを考え、露草や野薔薇といった道端にひっそり咲いている花をモチーフにしシリーズ化し和燭燭や手提げバッグ等の小さな作品に仕上げ百貨店の手作り作品展に参加している。期間中はブースに座り接客しながら絵具まで持ち込み実演で描いている。

夢はずつと追い続けられる！出来ない事を思い悩むのでは無く、どうすれば出来るのか？叶うのか？無理にでも自分の思考回路を変更し

た。今も制約は多い。それでも私は諦めず描き続けた



西条つ子の心意気

愛媛県立とべ動物園飼育員 竹筒平昭信 (85 回)

西条高校を卒業して26年。10月16日の朝、ほろ酔い気分で大んじりを担ぎ「葵の城」大手門の前までは行くが卒業して一度も大手門を潜ったことはない。そんな不良卒業生にある日突然、道前会から原稿の依頼があった。

西条で生まれ育った生粋の西条つ子。野球少年だった私は西条高校のユニフォームに憧れ北中学校から西条高校に入学した。春休みから練習に参加したが仮入部中に野球部を辞めた。練習はきつかったが充実していたし先輩にもかわいがってもらった。受験勉強もそのために頑張ったし面接の時に尊敬する人は？の問いに阪神タイガースの掛布雅之選手と言った男がこうもあっさりと言った。今でも私の人生の七不思議の一つだ。

私には大きな夢があった。進路相談の際、おまえがやりたい職業に就いている先輩はいないと先生に言われ自分で探すことにした。

夢とは神拝小学校の6年生の時、飼育委員会の委員長になり新しくできる飼育小屋の準備を任せられ動物たちや先生方との交流に充実感や達成感を感じた。そのことが動物園の飼育係への夢の始まりとなった。

卒業後、国内の動物園に手紙や電話をしたが良い返事はなかった。今とは違いインターネットや中高での職場体験もなくとにかく情報を得る手段が少なかった。

無職ではいけないと思いい知人の鉄工所や花屋などで働きながらチャンスを探っていた。

仕事は楽しくしていたが「ちょっと違うな」と感じるようになり京都の関西盲導犬協会や北海道の牧場なども訪ねたりしたが進展はなく焦り始めた。

そんなある日突然、愛媛県庁の人事課から電話がありとべ動物園の一期生の試験があるとのこと、そう言えば卒業後、人事課に手紙を送っていた。それを大切に保管し連絡までくれた。神業だと思った。そして試験に挑んだが筆記試験は今ひとつ、でもチャレンジしてダメだったらあきらめられると面接を受けた。そしてここでも信じられないことが起きた。

当時、バブル期の真只中で今の時代とは大きく違い就職先はたくさんあった。そんな中「君はなぜ定職に就かなかったのですか？」の質問に対して、西条高校を卒業した時、飼育係になりたくて道後動物園に電話をした際、山崎さんという方が対応してくれ君のように熱い気持ちがある人間は必ずチャンスがくるよと言われそれを信じて待っていました！」と言うと3人の面接官が笑顔になった。その中央にいた人がとべ動物園初代山崎園長だった。(私は山崎園長の顔を知らなかった)

そして晴れて道後動物園の門をくぐった。昭和62年9月1日のことだった。

初めは見習いとして猛獣舎担当の先輩についた。その人は、なんと野球部で一番かわいがってくれた数村先輩の伯父である数村さんだった。世間は狭いなと思った。

あの世紀の大移動と言われた道後動物園からとべ動物園へ動物たちを移動することを経験しとべ動物園での飼育人生が始まった。

あれから23年、今でも毎朝、恋人に逢うような気持ちで出勤し動物たちとは濃い付き合いをしている。動物の命

いつでも身近でお手伝い

~ 絆 ~



東予信用金庫



道前会の先輩・後輩の皆さんそして在校生のみんな、とべ動物園では是非、逢いましょう!!

を預かる仕事は目に見えないものを重んじる心が必要で壁にぶつかるとも多い。そんな時、私は伊曾乃神社の上り坂を担ぎ上げるだんじりを思い出し西条っ子の心意気で壁を乗り越えている。動物たちと関わり合い感じることが動物たちは日々淡々と生き何事もなかったかのように死んでいく。この姿には感動の連続で教わることがたくさんある。この培ったこれまでの経験を後輩たちに伝えたいと思いつつ平成11年の春、飛び込みで母校へ行き、後輩たちとの関わりをお願いしたところ当時校長だった星加映二校長が快く受け入れてくれ神拝小学校での「課外授業ようこそ先輩」が始まった。1年間を通して全校生徒とのふれあい授業を行い今年で12年目となりかわいいうち後輩たちからエネルギーをもらっている。

美しい瀬戸内海を横切る特急しかかぜに乗って岡山へ、そこから空港へ行って最後のおにぎりを手に飛行機に乗り込む。行き先はパリ。西条高校を卒業して12年。いま、あの頃は考えもしなかった人生を歩んでいます。大学卒業時、私はこの人生、何をしながら生きていきたいだろう? そうだ、やっぱりピアノ弾いていたいや! と思い、渡仏を決意しました。大好きなピアノの先生の生まれ故郷がパリだったということ、好きな作曲家がドビュッシーやラヴェルだったこともあって、フランスに憧れていました。2003年、フランス語は1、2、3しかわからず、ボンジュールとメルシーの2つの言葉だけをもってこの地に暮らし始めました。滞在許可の申請では、ことごとく外国人ということを感じさせられ、たまには差別的な扱いも受け、美しいパリをクロワッサン片手に歩けば犬のうんちが踏むし、何かと苦労話には事欠かない生活でした。それからあつという間に7年半がたち、音楽院をいくつか無事卒業して、今はフランスの音楽院でピアノを教えたり伴奏をしたり、クラシックのピアニストとして生活しています。その間フランス



西条から海外へ
パリ在住 伊藤 美織 (99回)

人ピアニストと結婚もし、ようやく安定して生活できています。未だに受け入れられない文化や、習慣はあれど、住めば都。なんとかこの地で、根を張って生きていこうとがんばっています。帰国の際、西条でも年に1度は一緒にコンサートをさせていたただいてます。西条の方々には聞いていただけるとは本当に励みになりますし最も嬉しいことです。海外で暮らすのに一番大事なことで、そして苦労したことはやはり言葉でしょう。西条高校時代にお世話になった英語の先生・E.L.Tのレベッカ・バッドさん。英語の授業はもちろんです。職員室の掃除担当だった私は、掃除中さぼりついでにいつもレベッカにつかない英語でしゃべりかけて教えてもらったり、逆に私は日本語を教えるあげたり、大変楽しかった思い出があります。彼女とはその頃から家族ぐるみの付き合いで、いまだに電話で長話したり、結婚式にはパリまで来てくれたり、西条高校がもたらしてくれた出会いの一つです。英語とフランス語は姉妹のようなもので、フランス語習得の鍵を彼女にもらったことはいまでもありません。海外で暮らす日本人は今の時代たくさんいます。インターネット、コミュニケーションツールが発達して世界は狭くなり、世界に散らばる友達と頻りにコンタクトをとれるような世の中になりました。実はそのおかげで、海外で活躍している西条高校の同級生たちと連絡を取り合うことができています。パリには7区のすてきなフレンチレストランでシェフをしている守江くん、本当にすばらしい料理です。西条の水が育んだ味覚がフランス料理の本場で花咲かせているなんて、なんとも勇気づけられることです。理数科で机を並

べて一緒に勉強していたクラスメートの武智くんはオーストラリアで大学の先生をしています。このあいだ学会のためパリに来ていまして、守江くんと3人で乾杯しました。もちろん西条弁で。西条にいるみたいな感覚でした。またオーストラリアの無人島で生態調査や環境維持の仕事をしている津島さん。幼稚園から西条高校までずっと一緒に、帰省が重なるときは必ず会ったり、頻りにメールをして近況を報告し合っています。生きている場所は違えど、みんな西条高校の同級生。励まし合える戦友のようなものでしょうか。そして、外に出たもの同士の共通の話題は、やはり西条のこと。西条にいる家族、友達、西条の美しい水、あふれる自然、そこに生活していた歴史があるということ。7年半経っても西条に帰るとずっと足が地に着くような感覚は、やはり生まれ故郷だからでしょうか。海外で着ている鎧がとれ、水と空気が自分をリセットしてくれるようです。帰る場所があるということは幸せなことですね。私は世界中どこにいても、何年経っても、自分が西条人であることに変わりはない、西条が世界一の場所だと思っています。ただ、海外にいて毎年とても恋しいと思うのは、西条祭り...かな。



株式会社 村上鉄工所

代表取締役 村上 暁 取締役 村上小夜子 (63回卒)

本社 〒799-2206 愛媛県今治市大西町脇甲733番地3 TEL 0898-53-4108 FAX 0898-53-4545
西条工場 〒799-1354 愛媛県西条市北条962番31 TEL 0898-76-1820 FAX 0898-64-0568



道前会報の発行
(毎年6月1日付)

道前会

道前会は、県立西條中学校・県立西條高等女学校・県立西条高校の大手の門を巣立った36,000人の会員が、先輩、後輩、同窓と互いに連絡を取り合いながら親睦を図り、母校との連絡を密にし、母校の発展に寄与する活動をしています。本部事務局は西条高校内の道前会館にあります。



卒業生への卒業証書
台紙の贈呈



優秀な生徒に対し
道前賞の贈呈



新入生への絵はがきの贈呈
「我が母校」8枚1組

- ・同期会開催等への支援、協力
同窓会を企画、実施される際のお手伝いをしています。どんどんご相談下さい。(道前会事務局まで)
- ・全国大会出場へのお祝い
高体連、高文連、国体等へ出場の在校生への支援しています。
- ・道前会ホームページの運用と充実(平成23年より開始)
- ・支部活動への助成
(東京、東海、近畿、広島、岡山、松山、今治)
- ・評議員会の充実



西条高校文化祭での
道前会コーナー開設

道前会は、在校生の入会金および同窓生の本部への年会費2,000円で運営されております。さまざまな事業に取り組みますのも、皆様のご協力のおかげと感謝しておりますが、近年、財務状況が特に厳しくなっておりましました。

新幹線の生みの親十河信二(元)国鉄総裁(第2回卒業)を頂点とし、110余年の伝統と、全国に誇れる道前会組織を維持発展させるためには、全会員の絶大なるご支援とご協力をいただくほかはありません。

会員の皆様には、どうぞご理解、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

年会費の振り込み用紙は、道前会報をお送りする際に同封しておりますものをご利用下さいませ。

問い合わせ先：道前会本部事務局

(TEL・FAX:0897-53-2192 寺川・武智)

道前会 総会の予定

月日 11月19日(土)

場所 西条国際ホテル

講演講師 三木秋男 先生(48回)

教育の地西条のルーツ西条藩が江戸時代において日本の教育振興に果たした役割から明治に至った経過はきっと私たちに新たな勇気と誇りを与えてくれることでしょう。総会の案内は改めてホームページ及び評議員を通じて行います。多くの方のご参加を期待しています。

平成22年度 会務報告

平成22年

- 4月10日(土) 平成22年度入学式
- 4月20日(火) 平成21年度会計監査
- 4月22日(水) 理事会
- 5月29日(土) 東京道前会総会
- 6月2日(水) 評議員会
- 6月12日(土) 近畿道前会総会
- 6月13日(日) 東海道前会総会
- 6月26日(土) 岡山道前会総会
- 7月21日(水) 理事会
- 9月15日(水) 理事会
- 10月20日(水) 理事会
- 11月2日(金) 松山道前会総会
- 11月17日(水) 理事会
- 12月15日(水) 理事会

平成23年

- 1月19日(水) 理事会・評議員会新年会
- 2月23日(水) 理事会
- 2月28日(月) 道前会入会式
- 3月1日(火) 平成22年度卒業式(第111回)
- 3月16日(水) 市役所道前会総会
- 3月23日(水) 理事会

平成23年度 事業計画書

- 道前会報19号の発行
(平成23年6月1日発行予定)
- 支部活動への助成並びに同期会等への支援・協力
(資料作成等)
- 卒業生へ記念品の贈呈
(卒業証書ホルダー・道前賞)
- 新入生へ給葉書の贈呈
- 生徒の全国大会出場へのお祝い
(高体連・高文連主催、国体等)
- 平成23年度 道前会総会の開催
(平成23年11月19日)
- 文化祭における在校生への啓発活動
(道前会コーナーの開設)
- 文化発表会の助成

平成23年度一般会計収支予算書 平成23年4月1日～平成24年3月31日 単位 円

科目	予算額	前年度予算額	増減	摘要
前期繰越金	2,396,989	1,234,274	1,162,715	
会費	4,200,000	4,300,000	100,000	平成23年度分
入会金	3,003,000	2,739,000	264,000	@3,300×910人
手数料	10,000	10,000	0	名簿等
広告料	500,000	500,000	0	会報広告料@50,000×10
雑収入	1,011	1,726	715	預金利息等
合計	10,111,000	8,785,000	1,326,000	
科目	予算額	前年度予算額	増減	摘要
総務費	1,000,000	1,000,000	0	振込手数料(250,000)、支部総会祝金(160,000)、教員饗別(100,000)他
需用費	150,000	150,000	0	電気代、複写機使用料
通信費	150,000	150,000	0	電話料、郵送料
旅費	400,000	200,000	200,000	支部総会出席2名
人件費	1,700,000	1,700,000	0	賞金、給料
事業費	4,450,000	4,450,000	0	会報発行(2,570,000)、支部補助(600,000)、卒業記念品代(430,000)、全国大会等補助(400,000)、給葉書(250,000)他
会議費	150,000	100,000	50,000	理事会、評議員会等
総会費	450,000	0	450,000	
予備費	1,661,000	1,035,000	626,000	120周年事業費等
合計	10,111,000	8,785,000	1,326,000	

平成21年度一般会計決算報告書

平成21年4月1日～平成22年3月31日 単位 円

科目	予算額	収入額	増減	摘要
前期繰越金	345,729	345,729	0	
会費	4,500,000	4,278,745	221,255	平成21年度分2,122件
入会金	2,880,000	2,888,000	8,000	全日制@¥3,000×959 定時制¥11,000
手数料	10,000	403,700	393,700	名簿手数料356,400、名簿代47,300
広告料	400,000	500,000	100,000	会報広告料@50,000×10
雑収入	1,271	160,853	159,582	寄付金利息等160,853
合計	8,137,000	8,577,027	440,027	
科目	予算額	支出額	増減	摘要
総務費	1,000,000	690,698	309,302	振込手数料(243,395)、支部総会祝金(150,000)教員饗別(101,000)他
需用費	150,000	114,961	35,039	複写機使用料(35,970)、電気代(35,280)他
通信費	150,000	140,515	9,485	電話料・インターネット(86,765)、郵送料(53,750)
旅費	200,000	97,800	102,200	支部総会出席
人件費	1,700,000	1,578,750	121,250	給料(840,000)、賞金(827,300)
事業費	4,450,000	4,501,445	51,445	会報発行2,563,285、支部補助(1,004,480)、全国大会等補助(400,000)、卒業記念品(471,250)、卒業50年案内(47,430)他
総会費	450,000	218,584	231,416	
予備費	37,000	0	37,000	
合計	8,137,000	7,342,753	794,247	

収支差引額 収入額 8,577,027 - 支出額 7,342,753 = 繰越額 1,234,274

平成21年度積立金会計決算報告書

平成21年4月1日～平成22年3月31日 単位 円

前期繰越額	2,000,000	(任意積立金 2,000,000)
当期積立額	0	
当期取崩額	0	
次期繰越額	2,000,000	

平成21年度全国大会出場祝基金会計決算報告書

平成21年10月～平成22年3月31日 単位 円

当期積立額	1,995,628	
当期取崩額	380,000	全国大会出場祝金として
受取利息	489	
次期繰越額	1,616,117	

平成21年度末財産目録

平成22年3月31日 単位 円

預金		資産合計	4,850,391
東予信用金庫普通預金	2,739,755	内 任意積立金	2,000,000
愛媛銀行普通預金	1,616,117	全国大会出場基金	1,616,117
㈱ゆうちょ銀行振替口座	494,519		

監査報告書

適正な会計処理・報告がなされていると認めます。
平成22年4月20日

会計監査 徳増達史
 会計監査 加藤正樹
 会計監査 梶野明

平成22年度一般会計決算報告書

平成22年4月1日～平成23年3月31日 単位 円

科目	予算額	収入額	増減	摘要
前期繰越金	1,234,274	1,234,274	0	
会費	4,300,000	4,229,000	71,000	平成22年度分2,113件
入会金	2,739,000	3,185,700	446,700	全日制3,176,700 定時制9,000
手数料	10,000	148,130	138,130	名簿手数料99,300、名簿代48,830
広告料	500,000	0	500,000	会報
雑収入	1,726	204,049	202,323	寄付金203,811 利息等238
合計	8,785,000	9,001,153	216,153	
科目	予算額	支出額	増減	摘要
総務費	1,000,000	702,859	297,141	振込手数料(236,965)、支部総会祝金(120,000)教員饗別(149,000)他
需用費	150,000	101,410	48,590	複写機使用料(35,659)、電気代(37,401)他
通信費	150,000	104,005	45,995	電話料・インターネット(82,130)、郵送料(21,875)
旅費	200,000	121,046	78,954	支部総会出席
人件費	1,700,000	1,560,750	139,250	給料(840,000)、賞金(720,750)
事業費	4,450,000	3,822,462	627,538	会報発行(2,566,124)、支部補助(604,480)、全国大会等補助(190,000)、卒業記念品(404,000)、卒業50年案内(22,858)他
会議費	100,000	96,632	3,368	
総会費	0	0	0	
予備費	1,035,000	95,000	940,000	ノートパソコン
合計	8,785,000	6,604,164	2,180,836	

収支差引額 収入額 9,001,153 - 支出額 6,604,164 = 繰越額 2,396,989

平成22年度積立金会計決算報告書

平成22年4月1日～平成23年3月31日 単位 円

前期繰越額	2,000,000	(任意積立金 2,000,000)
当期積立額	0	
当期取崩額	0	
次期繰越額	2,000,000	

平成22年度全国大会出場祝基金会計決算報告書

平成22年4月～平成23年3月31日 単位 円

当期積立額	1,616,117	
当期取崩額	525	残高証明手数料
受取利息	308	
次期繰越額	1,615,900	

平成22年度末財産目録

平成23年3月31日 単位 円

預金		資産合計	6,012,889
東予信用金庫普通預金	3,954,440	内 任意積立金	2,000,000
愛媛銀行普通預金	1,615,900	全国大会出場基金	1,615,900
㈱ゆうちょ銀行振替口座	442,549		

監査報告書

適正な会計処理・報告がなされていると認めます。
平成23年4月15日

会計監査 徳増達史
 会計監査 梶野明
 会計監査 加藤正樹



支部会だより

東京道前会

近藤 篤 (68回)

平成22年度の総会は5月29日(土)11時より、前年同様千代田区平河町の都市センターホテルにおいて開催されました。

曇り空とはいえ、穏やかな日和にも恵まれて出席者は昨年より少し多めの150名が集いました。

母校から河野敏校長先生、本部からは本山昭雄副会長の来臨を賜りました。総会は、阿部会長の開会の挨拶、さらに河野校長先生、本山道前会副会長よりのご挨拶を戴きました。

続いて近藤清史幹事長の会務報告、河上光揚監事の監査報告があり、満場一致で承認になりました。また、新たに戸田公康さん(66回)、齋藤晴雄さん(67回)、山本正博さん(67回)、和田卓也さん(86回)、矢野平祐さん(100回)の5名の幹事が選任されました。

今年のゲストは、昨年の春夏の甲子園出場、さらに47年ぶりの夏の選手権大会での勝利をあげた立役者秋山拓巳投手のご両親の秋山正二・みゆきご夫妻を、地元西条よりお招きしました。寺田紀子さん(70回)の司会インタビューにより、秋山拓巳投手の誕生の頃か



平成22年度 東京道前会 総会

ら、やがて父正二さんの手ほどきで野球を始め、西条高校野球部さらに阪神タイガース入団までの生い立ちを、エピソードを交えながらお話をして戴きました。

懇親会は最年長の佐伯完二さん(43回)と最年少の井上智子さん(100回)の乾杯の音頭で威勢よく始まり、恒例となった宇高連絡船のうどんや、地元の物産販売、前年に続いて西条特産野菜販売などいずれも好評でした。

最終は恒例の抽選会で、今年も初参加の方や、遠路地元より来られた方々を中心に福の神が微笑んでいました。最後は西条高校校歌、続いて西条高等学校校歌そして南海道前斉唱のあと、昨年同様秋山重樹さん(87回)十亀昭人さん(88回)の応援団コンピが壇上リードにて、一同元氣よく歌い上げました。

締めくくりは、近藤清史新副会長の閉会の挨拶で来年の再会を誓いつつ散会となりました。今年度の特筆すべき活動は、和田卓也さん(86回)の働きかけで母校の文化祭(9月28日)に、東京道前会の活動の紹介の場を戴いたことです。時間不足で他の支部との共催とは行きませんでした。今年度は「来年も是非」と母校及び道前会本部より一定の評価を戴きました。今年度の文化祭には是非とも、他の支部とも連携して道前会の支部活動を母校の活性化にも役立てて戴けるよう努力を続けて行きたいと思えます。

その折には母校の先生方や道前会の方々には大変お世話になりました。今後ともよろしくお願ひ申し上げます。

後ともよろしくお願ひ申し上げます。

東海道前会

幹事 今井 正美 (66回)

一、平成22年度東海道前会総会は、6月13日(日)13時から名古屋市のホテルキャッスルプラザにて32名出席のもと開催されました。総会には、母校から河野敏校長、道前会本部から村上俊行会長、東京道前会から阿部陽一会長の3名の方のご臨席を賜りました。

河野校長からは、卒業生の進路状況や合唱部及び女子ソフトボール部などの活発なクラブ活動のご報告がありました。また、一昨年の硬式野球部の甲子園出場に際しての各種支援へのお礼のご挨拶もあり、文武両道の校風を受け継ぐ後輩たちの活躍ぶりに四国健児の意気を頼もしく思いました。

また、村上会長からは、西条高校のホームページの改定や道前会の内規改訂などの事業報告の後、ユーモアを混じえながらの本部財政の苦境のご報告があり、事務局のご苦労を思うと同時に我々も更なる会員の協力の必要性を肝に銘じた次第でした。

そして、阿部会長からは東京支部の活動状況(若い会員の参画や女性役員の高張りなど)をお話いただき、道前会支部運営の共通の悩みやアイデアなどを共有化することができました。

その後、総会は、先回の平成20年度の総会以降に物故者となられた会員の紹介と黙祷を行い、今回の総会の議案である、平成20・21年

の議案である、平成20・21年



度事業報告と会計報告」及び「平成22年度事業計画(案)」を審議、原案通り可決して、懇親会に入りました。

懇親会は、越智清氏(41回)の乾杯の音頭で始まり、各テーブルでは、時代を越え、世代を越え、時を忘れて、母校を縁にした交流が盛んに行われました。懇親会では、途中、村上俊行氏(58回)による「西条だんじりのルーツを探る」と題しての講演が行われました。京都祇園祭の神幸行列に起源し、日光東照宮の修理の技術に支えられて発展したことなど我々が知らなかった西条祭りにまつわる数々の事象を確認でき、感動を覚えることが出来ました。また、氏が今までに取材された全国各地の「担ぎだんじり」や「大鼓」に関する祭りの動画ビデオは、西条祭りの素晴らしさを再認識させるものでした。

更に、余興として佐藤昭二氏のマジックショーが行われ、皆で、種明かしに興じました。

最後に、後藤貞之氏(62回)指導による校歌斉唱、越智眞佐男氏(52回)による万歳三唱を経て、松本順子副会長(白菊40回)の閉会の辞で終了しましたが、参加者は別れを惜しみながら次回総会での再会を約しました。

なお、総会後の反省会では、2年に一度の総会開催のはざまの年に、日帰り旅行などの親睦を図る機会を作ってはどうか、との意見も出され、前向きに推進する計画です。その際には更なる参加者の募集に努めたいと考えております。

二、平成22年11月12日(金)恒例の東海道前会ゴルフコンペを緑ヶ丘カンツリークラブ(山路会長紹介)で行いました。参加者は10名で成績は佐藤育成氏(60回)が優勝、準優勝山路会長(50回)、3位中原氏(59回)でしたが、晴天に恵まれて全員和気藹々と楽しくプレーし、終了後表彰式と簡易パーティーを行いました。次回回は平成23年前半の開催を計画しています。女性や初参加の方々もお待ちしております。(連絡先) 森寅男幹事長 TEL

の議案である、平成20・21年

株式会社アドバンテック



代表取締役 山名正英 (79回卒) 代表取締役 首藤信生 (79回卒)
本社 〒793-0046 愛媛県西条市港293-1 TEL(0897)53-7711代 FAX(0897)53-7733
URL: http://www.advantec-japan.co.jp

0566920997

三、平成22年11月6日(土)中部愛知県人会が名古屋市のヒルトンホテルで開催されました。山路正雄東海道前会会長が当会会長にも就任しており、同窓会の横断的な連携も図り易いことから東海道前会のメンバー11名が参加しました。当会は誰でも自由に参加できます。愛知県内の他の松山東、今治西、宇和島東高等学校同窓会会員などと話し合いを持つこともできました。今後このような活動を継続し、東海道前会の活動の活性化を図りたいと考えています。以上

近畿道前会

近畿道前会幹事長 塩出 雅(70回)

平成22年度の近畿道前会総会は、6月12日にホテルグランヴィア大阪で開催されました。

来賓として、村上俊行道前会会長、阿部陽一東京道前会会長、そして母校より河野敏校長を迎え、80名以上の会員の出席を得ました。

第一部の総会は塩出が司会を務め、物故会員に対する黙祷から始まりました。高須賀会長が声の不調のため、渡辺宏副会長が開会の挨拶を行い、その後、来賓を代表して河野校長の挨拶を頂き、総会議事へと進みました。決算、予算ともに承認されました。

第二部は道前会会長である村上俊行氏にご講演を頂きました。演題は「西条だんじりのルーツを探る」各地のだんじり祭りから」で、VTRで各地の祭りの



様子を見ながら、山車の起源や全国へ拡大して行く経緯のお話があり、更には西条地区の祭りの歴史をお話頂きました。近年地元へ帰ることが減ってきた会員からは、懐かしいとの声が多くあがりました。また、各地の担ぎだんじりのビデオもあり、興味深いお話をうかがうことができました。

第三部は圖子会員の司会で、懇親会。阿部陽一東京道前会会長の挨拶の後、食事となりました。経費の関係で、昨年までと異なり、バイキング形式となりましたが、席を立つて動くことが多くなつたためか、あちこちで学年を越えて話の輪が広がっていました。また、昨年に引き続き、西条市産業支援センター、名水ブランドの方々のご協力、地元特産品の販売スペースも設けられ好評の内に完売しました。さらに西条市にある酒造会社から日本酒を持ち来試飲会も行われ、そのテーブルはずっと人だかりがしてありました。来年は、早めに取り配して、これも販売する道を考えております。ともかく、会員の協力の下、和氣調々のうちに来年の再会を期しつつ、校歌を高らかに斉唱して、総会を終えることができました。

近畿道前会ではゴルフコンペもっており、参加者も少しずつ増えていますが、もっと盛んにしたいと思っておりますし、それ以外の集まりも増やしていきたいと思っています。

近年の課題である、会員、特に70回台以降の会員の確保は遅々として進まず、同級会を行っている会員に協力を求めているところです。また、ホームページを作成し、情報の発信を図っています。

URLは、<http://kinkidouzenkai.ehonet/>です。会則やこれまでの講演者と演題、総会の様子や会計報告などを載せておりますので、ぜひご覧ください。近畿在住の方々ははじめとして、皆様からのご連絡をお待ちしております。「問い合わせ」には連絡方法を

載せておりますし、掲示板もございませので、ご利用ください。

平成23年度の総会は、6月11日(土)にホテルグランヴィア大阪で開催されます。詳しいことはホームページにも掲載しますし、手紙で知りたいという方は、ご遠慮なくご連絡下さい。別途お送りいたします。多くの皆様のご来場をお待ちしております。

岡山道前会

菅 尊士(58回)

岡山道前会は、1985年(昭和60年)5月26日に設立総会を開催以来、本年で25周年を迎えることができました。

この間の本部を始め関係各位のご支援・高配に感謝と御礼を申し上げます。

この記念総会を6月26日に岡山市の駅前ミヨシノで会員18名の参加のもと、母校から津村教頭、本部から村上会長の出席をいただき開催しました。

総会は、冒頭、この1年間に故人とられた方々に黙祷をして哀悼の意を表し、ご冥福をお祈りしました。

そして、菅会長の開会挨拶(25周年を迎えることができたことに対し諸先輩及び関係各位に謝意)のあと、津村教頭及び村上会長から、母校、本部の近況等をご報告いただきました。

議事では、議案は原案どおり承認され、総会は終了しました。

このあと、記念事業のひとつとして、会員(80期生)である岡山大学大学院教授(文学博士)松木武彦氏(2008年に著書「列島創世記」でサントリー学芸賞を受賞)に特別講演をお願いし、「八堂山遺跡と東予の弥生時代」と題して、発掘された遺跡から西条市を中心とする東予地方の弥生時代の姿について解説をいただきました。

引き続き懇親会に移り、國田顧問と設立総会参加者の乾杯で開宴し、それぞれ近況報告と津村教頭、村上会長をはじめ



め皆様の力をおかけにおいに盛り上がり、広島支部から転籍された河相氏の中締めで来年の再会を誓い閉会しました。

また、22年度事業計画に基づく親睦行事として、瀬戸内海三橋(明石、鳴門、瀬戸)巡りと大塚国際美術館(鳴門市)鑑賞の旅行を9月28日に10名の参加を得て実施しました。

当日は、事前の予報を覆す好天に恵まれ、北淡町震災記念公園(野島断層館)では阪神淡路大震災の威力に大塚国際美術館では1,200点に及ぶ世界の名画(銅板複製)の素晴らしさにあらためて感銘を受けました。

広島道前会

事務局 松垣 忠(53回)

平成21年2月、会長塩出氏、ご逝去され平成22年度の総会中止いたしました。顧問の河相浄夫氏(43回)昨年、岡山に転居されました。広島道前会には設立時から毎回ご出席を頂きました。今回は河相氏の自伝の一部のご紹介と、会員の随想一編を広島支部便りいたします。

河相浄夫氏(43回) 10歳代：西条中学(高校)入学と第2次世界大戦の勃発・進学少年期から青春時代に突入して行く過程において印象に残る事の数駒。

* 鬼より恐い上級生
* 大先輩の母校訪問、講演会と間接的に聞く大先輩のお噂



日本医療機能評価機構認定病院
医療法人 愛寿会
西条愛寿会病院
内科・泌尿器科・リハビリテーション科

理事長 内田 伸(69回)

〒793-0035
愛媛県西条市福武字蔵尾甲158-1
TEL.0897-55-2300 FAX.0897-56-2760
<http://www16.ocn.ne.jp/~aijyukai/>

(川上哲太氏、十河信二氏、菅源三郎氏
関(行男氏))

* 石槌山、笹ヶ峰を含む四国山脈縦走の登山体験と上級生の温情

* 漫然と中学時代を過ごしていた矢先

* 子供の悪戯から校舎火災発生

* 期末の試験は焼け残り校舎で午前・午後学年別に実施

この時に心の底から愛校心を感じた

* 全校をあげて毎週土曜日の中距離、年に一度の長距離競走

* 昭和16年12月8日の始業前と昼休みに校内売店のラジオに聞き入る

* 軍事訓練と査閲制度。寒中に校庭の桜土手を越えお堀に飛び込む

* 進学後の家庭負担を思い当時陸海軍の委託学生生徒募集試験制度があり通学しながら一定の月々の手当と現役編入がなされることを知り、これに応募するとの目標を定めた

心身ともに成長、多感な時に良き恩師に出会い、多くの友人が持てたことは生涯を通じて掛けがえのないものと思う。戦争初期とはいえず平和な時期であり楽しい毎日、時には行き過ぎて当時の憲兵隊分署まで連れて行かれたこともあったが大事には至らなかった

善かれと思込み菊鉢に水やりをした結果飛んだお目玉。後で思えば思慮不足

中学5年間の前半はただ自己中心的な言動をしていたのではと思われるがいろいろの出来事を経て、先輩には助けられ又そのうちに自分も何か人の為にならねばとの気持ち、何となく芽生えて来たことは確かだと思つ

随想 大下 美恵子(69回)

昨年は、還暦同窓会に出席し、学友と

思い出話に花を咲かせ楽しい時間を共有する事ができました

又、阪神タイガースの秋山拓巳投手の活躍は、父が阪神ファンだったこともあり、五十余年、「虎」ひとすじで応援してきた私にとっては、飛び上がらばかりの喜びでした

現在も、出逢いの数だけ学びがある

をモットーに人の温もりを感じながら仕事を続けています

季節ごとにさまざまな表情で語りかけてくれる故郷の山や海が大好き

年離れた母の元へたびたび顔を出してやらねばと思っています

松山道前会

三浦 晃(49回)

松山道前会では、

11月2日(火)昨年

と同じく

東京第一

ホテル松

山で平成

22年度会

定時総会

を開催し

た。総会に

は、卒寿

を全うさ

れた青野

誠一さん

(37回)や

白菊会32

回(昭和

15年卒)

の岡部純子さんらの大先輩など会員69名

が参加、来賓には、母校河野敬校長、道

前会からは山田順本部副会長、寺川和夫

事務局長、越智惺今治道前会前会長が出

席して頂いた

会場には、井原孝明さん(63回・元NTT)自らが作曲した「雨二毛負ケス」宮澤賢治作)のメロディーが流されるなか、

松浦弘事務局長(57回)の司会で開会、

全員で校歌を斉唱、物故会員への黙祷を

行った。三浦晃会長(49回)は、「道前会

の「道前」は飛鳥・奈良時代に制定され

た南海道の「道の口(くち)」の意、歴史



を感じさせる由緒のある名称、県下2番目に古い伝統ある名門校の同窓会、みんなの力で若返りを図り、更に大きく羽搏いて欲しい」と開会のあいさつ。続いて、河野校長からは、「母校運動部の活動状況や文化部の読書活動での文部科学大臣賞受賞など」が報告され、山田順副会長からは、「ホームページ立ちあげのための委員会など3委員会の設置による道前会本部の活性化」の取り組みの報告があった

議事に入り、平成22年度の活動状況、収支報告を承認、任期満了に伴う役員改選を行い、現役員全員の再任と欠員中の評議員3名を補充した

懇親会は、新しく評議員に選任された高塚真志さん(76回)の、円高不況を吹っ飛ばして松山道前会を更に大きく開展させよう」との力強い乾杯の音頭で開宴

卒業期順位に配置されたテーブル毎に、それぞれが盃を酌み交わしながら同じ学び舎で学んだ者同志の絆を確かめ合った

歓談がすすむなか、余興として、富貴流宗家富貴草舟さんが、詩吟風に創作した「影を慕いて」を声量豊かな歌唱力で独唱した後、竹林軒大師範長谷川象山さんの尺八に合わせ、「船頭小唄」と「荒城の月」を全員で合唱、その昔を懐かしんだ。続いて、「昨年見事日本一に輝いた渡部章さんの安来節と身ぶり、手ぶりが鮮やかで、ユモアたっぷり」の「どじょうすくい」踊りが披露され、参加者から大きな喝采を浴びた

最後に、役員で最年少の寺町達朗さん(77回)が、「来年は若い後輩を連れ、会場を埋めつくし、松山道前会を若返らせよう」と開会のあいさつ、万歳三唱を行い、秋の夜長のひとときを惜しみながら幕を閉じた

道前会西条市役所支部

川上 正起(70回)

西条市は、昨年、東洋経済新報社が公開した、全国787市の成長力ランキングで、全国で第77位、県内11市中、第1位にランク付けされ、「元気のあるまち・西条」を改めて印象付けました

これ、市民が一丸となり、「自己責任」と、「自己決定」の原則のもと、「自立」と「自活」の実現をめざし、「攻め」と「挑戦」、「チームワーク」の姿勢で展開しているところによるものでしょう

また、国が直轄で整備を行う重点港湾に「東予港」が選ばれ、昭和39年に新産業都市に指定されて以来の悲願であった「東予港」の整備が大きく前進することになりました

さて、当支部は、平成22年度総会を、平成23年3月16日、西条国際ホテルにおいて、道前会から本山昭雄副会長、寺川和夫事務局長、学校からは、佐伯康晴事務局長のご臨席のもと、伊藤宏太郎西条市長をはじめとする会員100名余が出席し盛大に開催しました

懇親会では、世代を越えて和気藹々と親交を深めるとともに、現在「元気印の母校を更に支部として少しでも応援していきたい」との会話がはずみ、学校との絆が一層強まったと感じています

西条市は、市民の皆様をはじめ、産学官の各フィールドを「つなぐ・つながる」をキャッチフレーズに掲げ、「チーム西条」が一丸となり、地域の均衡ある発展に取り組み、

「人がつどい、まちが輝く、快適環境実感都市」の実現をめざしてまいります



今 治 道 前 会

会 長 西辻 勝平 (52回) 旭東産業

幹事長 長井 孝司 (70回)

野球部OB会 金子 哲夫 (60回)

道 前 会 員 新居田孝幸 (103回)

連絡先 今治市桜井 1・11・1 旭東産業 TEL 0898・48・5637 FAX 0898・48・5635



同窓会だより

熱海温泉で同期会

鈴木 秀夫(52回)

名札で確認しながら「やあ! やあ!」のあいさつ。平成22年11月15日、静岡県熱海温泉での52回生同期会の光景。



同期会報告

村上 俊行(58回)

その後、学制改革、地区制、男女共学が実施され、西条北、南、新居浜東、西、小松、丹原高に分散、高校を卒業した。それだけに思いもひとしお、同期会は西条をはじめ、新居浜、大阪、東京などで、毎年開いている。熱海の同期会には70人(男性37人、女性33人)が出席。天下の名湯につかり、夜の更けるのも忘れ語り合った。翌16日は箱根散策に出かけ、芦ノ湖の遊覧船上から、雪化粧の富士山を眺め、再会を誓い別れを惜しんだ。

第五十八回卒業生同期会(燦々会)は、

平成二十二年四月七日岡山ブラザホテルにおいて岡山・広島県在住の会員の世界で実施し、八日は二台のバスで倉敷等を観光をし、楽しい時間を共有した。



「卒業五十年によせて」

橋本 淑子(61回)

待ちに待った三月一日になり、拍手に迎えられる体育館に入りました。第一一回の卒業生や在校生、保護者がすでに着席している中、私達は身の引き締まる緊張をおぼえていました。卒業以来五十年になり、今年初めに学校長と道前会長から案内状を頂きました。さまざまに人生を過ごしてきた私達百余名の参加者は、それぞれの思いを胸に臨んだ儀式でした。

校門の大手門は昔と変わらず長年の風雨に耐え風格を保ちどしりと構えています。校門内側の屋根には取りはずされたままだった「獅子の飾瓦」が新しく復活しています。私達六一回生の奇贈した獅子の飾瓦は銀色に輝き、母校への思いを込めて立派

な形となつて私達を迎えてくれました。卒業証書授与では、一人一人の名を呼び、それぞれにびしりと起立をして動きません。男女の区別なく五十音順に呼ばれるのは、私達の時代にはなかったことです。

在校生も私語はなく不動の姿勢を保ち感服するばかりです。かえって私語の多いのは私達のほう。「寒いね」「カイロあるよ...」雨が激しくなり底冷えのするなか、式は厳粛に進みました。送辞が終わると、ピアノ伴奏(友人による)と、「私を泣かせて下さい」"La scia ohio piango"という曲と共に女生徒の答辞に、あちこちから鼻をすする音が聞こえました。「西条高卒業生というDNAを持ってこれからいかに生きるか」との決意に私達も往時を思い返し感動しました。「質実剛健」「文武両道」「気品と清楚」という一一年の伝統がしっかりと受け継がれている確かな姿を、本当に誇らしく思ったものです。

日々大らかな石鎚山にいだかれ、加茂川の清らかな心に癒されつつ、西条陣屋跡の恵まれた環境で高校生活を過ごしたことを改めて嬉しく思いました。そんな感慨にふけっている中、吹奏楽部と合唱部のコーラスに送られて、今年の卒業生三百余名はしっかりと巣立っていかれました。実に清々しくすばらしい卒業式でした。母校西条高の益々々々栄えながら、卒業後五十年の節目にご招待頂いたこと、第六一回生一同深く感謝申し上げます。



卒業後50年を目標として

塩出 崇(67回)

「ぼちぼち年齢じゃし、どうだろか。卒業後50年には、また学校の式に呼んでもらえるらしいぞ。」平成22年2月7日、某所に屯した4人の会話から、ことは始まった。6年後に一人でも多くの同級生に集ってみたい、各々が来し方を思い、それぞれの感懐を胸に大手門をくぐる。一なにか、青春以来、クラス幹事を募り、4月より毎月計6度の会を重ねた。いまだに多忙な身でありながら、繰り合わせての出席、ほとんどの幹事が皆勤であった。準備作業もさることながら、集まること自体が楽しみであるから不思議なものである。

8月14日、第67回生、約30年ぶりの同級会の様子を以下略記したい。16時、幹事集合、会場壁面には、卒業アルバムを中心に、在学当時のお宝写真を投影、カラー写真なぞなく、文字通りセピア色の記憶が現出した。BGMは1960年代後半のヒットソングに限定、昔の曲はよかった。歌詞に共感できるものがたくさんある。それは年齢のせいなのか、しかし、還暦過ぎて、も、ちよっと小指を噛んでみたかったり、欠席者からのコメントは、コーナーを設け、クラス毎に表示し、近況が伝わるようにした。17時、クラス毎の受付を開始、各幹事が担当、この頃より、会は既に始まった。



医療法人 仁明会
内科・消化器科

羽鳥病院

院長 羽鳥 重明
副院長 羽鳥かおる(第77回)



〒794-0043 今治市南宝来町3丁目2-3

(0898)22-2898(代)

模様である。―変化は大きいけど、彼かも？彼女かも？―恐る恐るの確認作業があちらこちらで行われ、周辺は騒然タイムスリップのスイッチオンである。

18時、写真(会終了時に配布完了)撮影後、鴻上朝美さんの司会で開会した。クラス幹事紹介、代表幹事高瀬康雄さんあいさつ、恩師紹介あいさつ、乾杯とスムーズに進行、宴となった。これより2次会終了(22時)までは、特に記すこともなく略させていただきますが、本当に「アツ」という間何を話す間もなく、何を為す間もなく時が過ぎた。

参加者は、河端満三先生、高辻信也先生の恩師お2人以下116名であった。

冒頭に述べたごとく、目標は2016年3月1日にある。まずは、最も多感な青年時代に袖を触れ合った仲間として、その縁をちよつと大切にしたい。次に、そこに何かがあるはずもないが、お堀を渡り、校門をくぐり再会することを、人生の予定のひとつに入れて、その日に至るまでを考えてみては。

とにもかくにも、皆で肩を組み、校歌を唄ったあの想いを胸に、各位のご健康とご多幸を祈り、同級会始末記とさせていただきます。

卒業四年目の同級会

福島由布子(107回)

平成22年12月30日に行われた第107回卒業生、同級会に行ってきた。このような大規模な同級会は卒業以来初めてで、3年9カ月ぶりに会う友達もいて、ワクワクしました。参加人数は先生方5名を含み、170名も参加していただきました。

場所は西条の国際ホテルであったのですが、到着して久々の友人と会うと高校当時の思い出が昨日のことのようによみがえり、再会を心から喜びました。

会場に入る前にくじを引き、その番号で席が決まるというシステムで、9クラスの人と同じ席になるか座って見ないと分からないという面白い企画でした。

人数が集まってきたところで、集合写真を撮ることになりましたが、今回は人数が多すぎたため2回に分けて撮影しました。

撮影が終わって、着席をし、さあ乾杯...という時、主催者の曾我部亜紀さんから「自分の席の椅子の下を触ってみてください」という意味深な発言があり、確認した後に「赤札ははってあなたがいるかと思いますが、その人は余興をしてみます」とと重大発言があり、当たった2名の方は余興をすることにになりました。

無事乾杯も終わり、食事をしていると、さっそく余興1人目の豊田ゆうき君がジャグリングを披露してくれました。ジャグリングとはみなさん1度はテレビなどで見たことあるかと思いますが、手に持った通常複数の道具を空中へ投げ、キャッチしたりを繰り返すことで、空中に1つ以上の道具が浮いている状態を保ち続ける技術なのですが、ゆうき君はなんとジャグリングの全国大会で日本一を取ったんです。ゆうき君のトークに、技術に、みんな引き込まれ会場は一気に盛り上がりました。

次に赤札が当たった渡邊けいすけ君と白石ゆたか君がカラオケを披露してくれました。ゆたか君は出席してくれていた私たちの学年主任だった大西先生のモノマネをし、会場は笑いに包まれました。

友人たちとも近況報告や、恋愛の話などで盛り上がりつつありますが、嬉しかったのは恩師である先生たちとたくさん話せたことでした。高校を卒業してからの話を

していると、友達や先生がずっと心配してくれていたことを知り、涙があふれ止まりませんでした。

楽しい時間はあっという間に過ぎ、最後に主催者の亜紀さんが「このようにみんなが来てくれて良かったです。私はずっと夢だった養護教諭として4月から働くことになり、神奈川県に引越すことになりました。今みたくにみんなに会える日は少なくなるとは思います、みんなも夢に向かって頑張っているから私も向こうに行つてから頑張ろうと思います。今日みんなに会えて本当に良かったです。」と涙ながらに一生懸命気持ちを伝えてくれました。今回このようにたくさんの方が集まったのも、内容がとも濃い同級会になったのも、亜紀さんが忙しい時間の合間を縫いながら一生懸命ミクシイやメールで呼びかけ、みんなが楽しめるような企画を考えてくれたからだと思います。私自身もまた、みんなに会えたことをバネにし仕事に私生活に一生懸命打ち込み、一回り成長した自分でみんなに会える日を楽しみにしています。



母校に立つ
同窓教職員

106回	101回	96回	93回	92回	92回	91回	91回	90回	90回	90回	88回	87回	85回	85回	83回	83回	82回	81回	80回	77回	72回	72回	71回	71回	69回	64回	卒業回	
横井	桑村	豊島	越智	真田	岡本	永井	宇佐美	田代	日浅	丸山	川又	真田	佐伯	合田	井上	桑原	大谷	近藤	日和佐	神野	白石	藤岡	曾我部	一柳	高橋	青木	氏名	
英里香	麻衣子	秀一郎	あす香	幸治	慎弥	紀夫	友佳子	知典	久美子	直子	孝弘	満	史	憲	知子	恵子	修一	智和	敬三	雄子	俊一	典夫	健一	幸利	徹	弘隆	教員	
講師・地歴公	実習助手	教諭・地歴公	教諭・英	教諭・数	教諭・国	教諭・音	実習助手	教諭・理	教諭・国	実習助手	教諭・数	教諭・数	教諭・理	教諭・地歴公	教諭・理	養護教諭	教諭・理	教諭・英	教諭・理	教諭・英	実習助手	事務長	校長	講師・英	講師・保体	講師・商	講師・数	教員

循環器科・内科・外科
医療法人 星友会
回生堂医院 院長 星加 照毅 (61回卒)
西条市神拝甲591(西新町) (西条郵便局西200m) 0897-55-3101(代)

本部及び各支部役員

一、本 部
道前会本部 事務局
 〒793・8509
 西条市明屋敷234
 西条高校内道前会館
 0897・53・2192
 FAX 0897・53・2192
 振替口座 01680・4・8745

会長 村上俊行(58)
 副会長 笹沼(田中)美千代(58)
 " 本山昭雄(61)
 " 山田順(71)
 " 藤田嘉夫(49)
 理事 西辻勝平(52)
 " 近藤勝志(56)
 " 木下(池内)基代(岐澄子)(56)
 " 栗田肇(58)
 " 西原俊基(58)
 " 森美藤原真智子(60)
 " 鈴木通敬(61)
 " 伊藤孝司(64)
 " 高石尊我部(シ)子(64)
 " 曾根(平塚)康代(65)
 " 森森多美子(68)
 " 杉野啓一(71)
 " 鳥谷浩(76)
 " 一色朝美(76)
 " 村上(村)直子(78)
 " 年森(入交)恭子(79)

二、支 部
東京道前会
 〒105・0012
 東京都港区芝大門1・7・4
 トーア芝ガーデン6F
 03・5733・2313
 FAX 03・5401・4762

会長 阿部陽一(57)
 副会長 水嶋高橋伸子(63)
 " 近藤清史(64)
 幹事長 近藤篤(68)
 相談役 田川右史(48)
 " 平井白石(八重)(51)
 " 榊弘(51)
 " 松本真一郎(56)
 " 石井栄三(58)
 " 明比章(70)
 副幹事長 津田林(ゆみ)(74)
 " 一柳(ユカリ)(66)
 事務局長 寺田(鈴木)紀子(70)
 運営委員長 曾我夏人(81)
 副委員長 和田卓也(86)

東海道前会
 〒461・0011
 名古屋市中区白壁4・28
 山路法律事務所内
 052・931・6306
 FAX 052・931・6785

顧問 荒川武二(39)
 会長 山路正雄(50)

近畿道前会
 〒534・0025
 大阪市都島区片町1・4・2
 シヤトーテル大手前内
 06・6354・1351

会長 高須賀 丈俊(52)
 副会長 松井(加藤)盛子(53)
 " 笹野浅野(恵美子)(54)
 幹事長 塩出 雅(70)
 幹事長 加藤 正司(55)
 会計監事 圖子 洋志(69)

岡山道前会
 〒700・0926
 岡山市西古松西町5・25・1002
 事務局 三浦賢稔
 086・243・1424

顧問 神野 時次郎(34)
 " 國田 正行(51)
 会長 菅 尊士(58)
 副会長 綾部(日浅)知美(62)
 幹事長 三浦 賢稔(58)
 幹事長 高井 克清(52)
 " 河原 刻也(53)
 " 矢原 登(58)
 " 土居(大館)玲子(59)
 監査 門田 強(53)
 安永 雄(53)

広島道前会
 〒733・0031
 広島市西区観音町10・14
 事務局 松垣 忠

福岡道前会
 〒818・0011
 福岡県筑紫野市阿志岐2371・1
 事務局 中路 幸信
 092・925・0733
 090・2854・3111

相談役 白川 幸司(57)
 " 池田 貢(60)
 会長 中路 幸信(62)
 幹事 十亀 勝次(62)
 " 近藤 久夫(70)

松山道前会
 〒790・0067
 松山市大手町8・8(株)キクノ内
 089・941・6191
 FAX 089・932・6541

会長 三浦 晃(49)
 副会長 吉本 貞雄(50)
 " 藤田 幸宏(60)
 " 宮嶋真鍋(寿美子)(52)
 事業部長 日野 利夫(57)
 会報部長 今井 節治(55)
 事務局長 松浦 弘(57)

新居浜道前会
 〒792・0016
 新居浜市港町4・36
 (株)藤田産業内
 0897・37・2816

幹事長 藤田 嘉男(43)

西条市役所道前会
 〒793・8061
 西条市明屋敷164
 0897・56・5151(代)
 FAX 0897・52・1200

会長 田中 明(67)
 副会長 佐伯 浩一(72)
 幹事長 杉野 啓一(71)
 監査 高橋 行夫(72)
 " 元根 衆三郎(73)

定時制道前会
 〒793・8509
 西条市明屋敷234
 西条高校内
 0897・56・2030 (内線29)

副会長 真木 光夫(55定)
 " 松本 守正(57定)
 " 山崎 輝雄(74定)
 幹事長 大森 正清(60定)



本店:松山市勝山町2丁目1番地
 TEL (089)933-1111
 ホームページ <http://www.himegin.co.jp/>

品川鈴子句碑完成の報告とお礼

紅葉の季節、皆様には益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。さて、かねてご案内致しておりましたとおり、去る十一月十三日、標記句碑の除幕式を開催致しました。

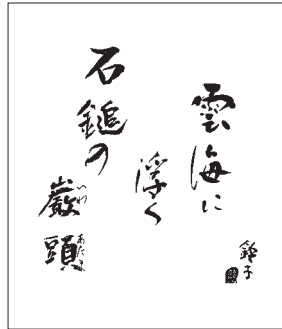
御多忙の中、佐々木龍新居浜市長様をはじめご来賓のご臨席のもと八十余名と多数のご出席をいただき、厳粛且つ盛大に執り行うことができました。偏に皆様方の深いご理解とご支援の賜であり、誠に有難く感謝申し上げます。

同封写真の様に立派にでき上がりましたこの句碑が、滝の宮の柱に文化の香りを漂わせ、市民の癒しに資することを願っております。皆様におかれましても、品川鈴子の俳界での活動を未永くご支援を賜りますようお願い申し上げ、句碑完成の報告とお礼に代えさせていただきます。

ありがとうございました。

平成二十二年十一月吉日

品川鈴子句碑建立実行委員会



品川 鈴子 略歴

昭和五十一年作

昭和七年 二月 新居浜市垣生に生まれる(旧姓 三浦)

昭和二六年 神戸薬科大卒

昭和三三年 橋間石に俳句と連句を師事

昭和六〇年 山口誓子に俳句を師事

平成六年 ひとりで連句会主宰

くさつげ主宰 創刊

日本文学協会会員・俳人協会評議員

新居浜市民俳句大会選考

連句協会副会長

昭和四一年 七曜賞

平成二年 現代芸術賞半どんの会

平成九年 神戸市文化活動功労賞

平成二年 明石市しおさい賞

平成二年 兵庫県ともしびの賞 等賞受賞

寄付金芳名録

H21年度、H22年度

- 松本 慶三(59回)
- 39回同窓会一同
- 丹 道夫(58回)
- 西原ハヤミ(女26回)
- 真鍋(福田)美恵子(女35回)
- 高橋 紘一(60回)
- 79回同窓会一同
- 木下基代子(56回)
- 女32回同窓会一同

お悔やみ



さる3月17日に前今治道前会長の越智惇氏(50回)がご逝去されました。

越智氏は今治道前会発足以来、会の発展に寄与し、今治地域の後輩への援助に多大な尽力をなされ、又、本部の顧問として、適切な助言もいただきました。

ご冥福をお祈り申し上げます。

寄贈図書目録

H22年～

- 織田有楽齋 著者名 菅靖匡 出版社 学研M文庫 松本慶三(59回)より寄贈 平成22年7月
- 古代・中世伊予の人と地域 編者 山内譲 発行者 関宏成 出版社 関奉仕財団 松本慶三(59回)より寄贈 平成22年7月
- 公的年金会計論 著者名 合田昌文 出版社 (株)文伸 合田昌文(51回)より寄贈 平成22年9月
- 駅神 著者名 函子慧 出版社 早川書房 真田岩助(59回)より寄贈 平成22年11月
- 西條史談会創立30年記念誌 発行者名 西條史談会事務局 出版社 西條史談会事業部 西條史談会会長 近藤勝志(56回)より寄贈 平成22年12月
- 未来へつなぐ人と水 発行者名 総合地球環境学研究所 出版社 創風社 西条市役所より寄贈 平成23年1月
- 公的年金会計論「第2版」 著者名 合田昌文 出版社 (株)文伸 合田昌文(51回)より寄贈 平成23年2月

お知らせ

3月11日の大地震と大津波で犠牲になった方々とご遺族に心から哀悼の意を表します。被災者の皆様にはお見舞いを申し上げます。被災者の方々に一日も早く通常の生活に戻れるようお祈りいたします。

道前会ホームページの更新について
道前会員にとってより親しみのある魅力的なホームページにするために、全面的な見直し作業を行っております。

是非、ご覧下さい。

HPアドレス

<http://www.geocities.jp/sajidozen/index.htm>

道前会メールアドレス

sajidozen@yahoo.co.jp

行事開催予定欄

なるべく多くの会員に同期会や同級会に御出席いただくため会報に行事予定欄を設けました。開催を予定している

行事がありましたら早めに事務局まで御連絡ください。

なお、同期会などの開催のための案内状などの発送を事務局ではお手伝い致します。お気軽に御相談ください。

50年目の卒業式
会員の皆様卒業されて50年目には、後輩の卒業式に御出席いただきまして、晴れやかに巣立ち行く生徒達の門出を祝していただきたくお願ひしております。西条高校第112回卒業式が平成24年3月1日に挙行される予定です。

この卒業式は62回の卒業生が該当します。是非御出席ください。改めて、案内状を差し上げます。

会費納入方法の変更について
道前会会費は今まで郵便局のみの振り込み方法でしたが、21年度からはコンビニからも振り込めるようになりました。

母校の後輩達のため、更なる道前会活動のため皆様の御協力をよろしくお願ひします。